



ピッキングの被害が激減、 ピーク時の40分の1に

特殊な工具をカギ穴に差し込んで開錠する「ピッキング」による窃盗被害が終息に向かっている。

外国人窃盗団がこの手口で空き巣を繰り返し、2000年には被害が全国で約3万件に上ったが、昨年は700件余りと、ピーク時の40分の1に。ピッキング防止法の施行や、防犯面に優れたカギの普及が封じ込んだ形だ。ただ、警察当局は警戒を続けている。

ピッキングの被害が急増し始めたのは1999年。もともと、鍵を紛失した際に業者が使っていた方法だったが、これが中国人窃盗団などに広がった。窃盗団のアジトからは、練習用に使っていた複数のカギ穴なども見つかった。00年の被害件数は2万9211件に上り、特に東京都内では約1万1000件と全国の3分の1を占めた。

2008年4月7日 YOMIURI ONLINE より

学生ハウジングでは、錠前交換の必要性をUSAGI通信等で配信するとともに、入居者入れ替え毎の鍵交換を推進しています。